

第6分科会
重度心身障害児、医療的ケア児に対する指導支援

自分と向き合い、自己管理をめざした実践

～保護者、学校、学校生活メディカルサポートアシスタントの連携を通して～

三重県松阪市立松尾小学校
教諭 篠原 かおり

1

本児について

- ・ 6年生 男児
- ・ 4歳頃に、1型糖尿病を診断
- ・ 自閉症・情緒学級に1年生より在籍
- ・ WISC-V FSIQ 73 (R7.7.9)
- ・ 復習を取り入れながら、学年相当の学習に取り組む

2

1型糖尿病とは？

- ・ 膵臓のインスリンを出すβ細胞が壊されてしまい、血糖値を下げるインスリンを分泌する力が弱まったり、出なくなってしまう病気。
- ・ 自己免疫疾患の一つ。
- ・ 生活習慣とは関係がない。

3

本児の学校生活について

- ・ メディカルサポートアシスタント、担任を中心に、日中の血糖値コントロール
- ・ 給食前の血糖値測定とインスリン自己注射の見届け
- ・ 学校行事や家庭科で、飲食が関係する時の配慮と保護者との連携
- ・ 低血糖になりやすい場面・・・体育、遠足・運動会などの活動量の多い行事

4

メディカルサポートアシスタントとの連携

- ・勤務時間 10:20～15:20
- ・休み時間に、持ち物や保護者からの連絡事項、1・2限の様子を担当からメディカルサポートアシスタントへ共有
- ・体育や苦手科目などを中心に活動内容の確認
- ・給食時のインスリン注射の見守りや、下校までの体調管理をしてもらっている

5

養護教諭との連携

- ・メディカルサポートアシスタント、担任との情報共有
- ・保護者と緊急時の打ち合わせ
- ・低血糖時の保健室の利用
- ・予備の薬や針などの保管
- ・職員研修
(病気について、対応について、バクスマーについて)



6

自己管理に向けた実践

- ・持ち物の確認
- ・モニターの携行
- ・インスリンポーチの携行
- ・血糖値チェック
- ・協力学級への子どもたちへの周知・理解
- ・学校行事での対応

7

① 持ち物の確認



8

①持ち物の確認



9

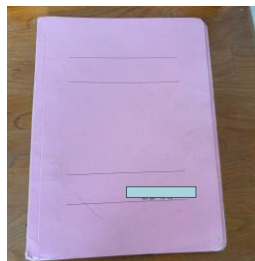
①持ち物の確認



	5月21日	5月22日	5月25日	5月26日	5月27日
インスリン					
センサー					
測定チップ					
針用ペン					
針 5 個程度					
グレースキュー 2本					
登校後の数値	225	204 カール	205 フェ	201	209

10

①持ち物の確認



7月 2日(火)			12月	インスリン①	経路管理 デブデブ	制	単位/日	10	単位/夜	単位
あまてん			インスリン②	特効薬 ランタス					夜	単位
時間	血糖値	血糖値	単位	インスリンの 単位	血糖値 測定時間	低血糖症状・経血内など				
8:10	78	右腕 0.5N	フル	1						
9:30	37.7	左腕 0.5N								
10:10	35.8	左腕 0.5N								
12:00	215	左腕 0.5N	フル	1	10	2枚	コントロール	27.0に降った 27.0に降った	2枚	
4:30	21	左腕 0.5N				フルコントロールで27.0に降った				
10:00	120	左腕 0.5N	フル	1	10	2枚				
12:00	93	左腕 0.5N		2	11					
		左腕 0.5N								
		左腕 0.5N								
		左腕 0.5N								

センター交差日誌
日誌
時 分
単位

血糖値測定

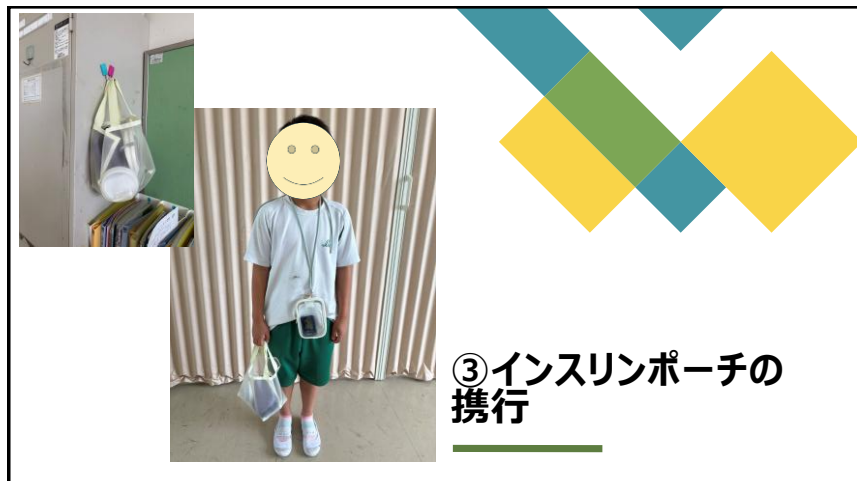
入館後できた 目録直近まで記入。C=片づけができた

11

②モニターの携行



12



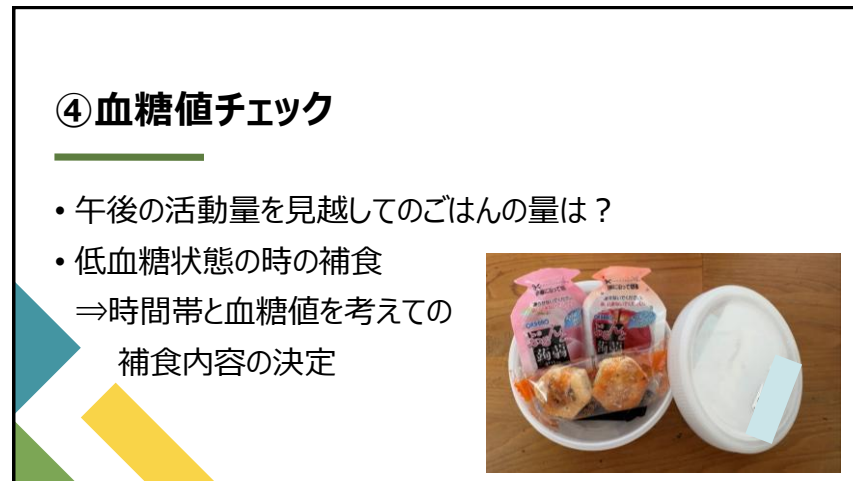
13



14



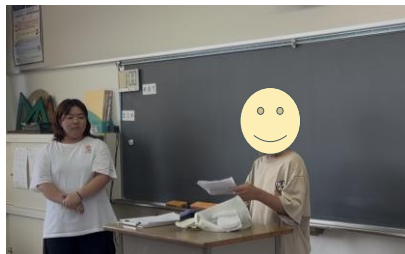
15



16

⑤協力学級の子どもたちへの周知・理解

動画



17

学校行事での対応

<遠足・運動会>

- ・いつもよりこまめな
血糖値測定
- ・十分な補食の準備

<社会見学・修学旅行>

- ・グループ活動中の
血糖値コントロール
- ・お菓子や買いものでの
飲食の対応
- ・夜間の低血糖対策

18

修学旅行への準備 (保護者・担任・養護教諭の3者面談)

- ・行程、見学地での歩く時間、食事内容の確認
- ・各食事でのインスリンの単位数を決める血糖値の確認
- ・高血糖時のインスリン追加をするかの相談
- ・低血糖時の補食内容の確認
- ・夜間の対応の確認

19

修学旅行の様子 (担任・養護教諭を中心とした支援)

- ・見学地を終えることを目安に細かな血糖値チェック
- ・補食をしても低血糖状態が続き、見学地の間に体を休める対応
- ・食事前に血糖値確認をして、自己注射、片付け
- ・自由行動での自己管理

20

成果

- 6年間同じメディカルサポートアシスタントがいてくれた
安心感・信頼
- 体調管理に必要なものの準備、片付け等の習慣が
身についてきた。
- 自分の体と向き合い、適切な判断をして、健康管理が
できるようになりつつある。

21

課題

- メディカルサポートアシスタントからの段階的な卒業
- 病気についてより知識を深め、必要に応じて、自分で病気のことを
伝え配慮を求める継続的な取り組み。
- 自然災害時などの非常時に、自分でインスリンポーチをもって避難で
きるように、日ごろから自分で携行する習慣づけが必要
- 非常時の学校としての備え

22

ありがとうございました

23